

講義名	政治学	授業形態	
担当教員	村上 友章	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 1 時限
		単位数	2
		履修開始年次	1 年生
		ナンバリング	

主題と概要

【目的】
この授業は政治学に関わる基本的な知識・理論を習得し、それらを用いて現代政治の諸問題を考察する能力を養うことを目的とする。

【内容】
政治学に関わる基本的な知識を学習してもらい、講義は「政治と経済」、「政治と社会」、「政治のしくみ」、「政治と世界」の4部構成からなり、身近な経済や社会における政治の役割を学んだのち、具体的な政治制度を理解し、さらにはグローバル化の世界における外交の動きを知る。全般を通じて現在の政治が直面しているさまざまな問題をトピックごとに取り上げ考察していく。そのなかで、従来の政治の仕組みや制度を支えてきた理念や考え方が、今日どのような意味で問い直しを迫られているのかを考えてみたい。

【意義】
私たちの暮らしと密接な関係にある政治を理解し、それについて深い洞察を示すことを目指す。こうした本授業の目的・内容は、まさに「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンを育成する」という本学ディプロマポリシーに合致するものである。

到達目標

- 政治学の基本的な概念やキーワードについての正確な知識を習得できるようになる。
- 選挙制度や政党、地方自治など現代の政治を支える制度的な仕組みについて正確に理解できるようになる。
- 今日私たちが直面している政治的な諸問題が、どのような歴史的背景から生じているのかを理解できるようになる。
- 政治学の基本概念を用いて、現在の政治的諸問題について考察し、自分なりの立場や見解を説明できるようになる。
- 以上の諸点を通じて、受講生は、本学のディプロマポリシーが掲げる資質・能力（「論理的思考力」「課題発見力」「構想力」「ビジネスパーソンとしての基礎能力」等）を習得できるようになる。

提出課題

【毎回の予習・復習レポート】
基本的に毎回、予習として教科書の該当箇所を読み、あらかじめ指示された演習問題を解き、それらをレスポンスを通じて提出する。また授業後には復習問題にも取り組み、レスポンスを通じて提出する。

【学期末レポート】
学期末には、授業で学んだ政治学の諸理論を用いて、現代社会の諸問題を考察する期末レポートを課す（1000文字以上）。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- 毎回の予習・復習課題については、授業中に解説を行う。

評価の基準

評価は、予習・復習レポート（50%）と期末レポート（50%）を合算して行なう。
教科書および講義で説明された内容が正確に理解できているかどうか、そのうえで自分なりの立場や見解が論理的に説明できているかどうか、が評価の基準となる。

履修にあたっての注意・助言他

- 本授業は教科書を用いた予習・復習を毎回、課す。そのため教科書は必ず手元になければならない。
- 教科書の内容は授業中に解説するので、本を読むのが苦手な学生も、予習・復習を粘り強く続ければ読解力は身に付くだろう。他方、教科書で予習・復習をする覚悟の無い学生には、この授業は意味がない。

教科書

.はじめて出会う 政治学.	北山俊哉ほか	有斐閣	1638	978-4641123687
---------------	--------	-----	------	----------------

参考図書

.なし.

その他

- 授業ごとに必要に応じてポータル等を通じて資料を配布する。

授業計画

- 第1回 はじめに
【パート1 政治と経済】
第2回 組織された集団
第3回 党と議員
第4回 大企業と政治
【パート2 政治と社会】
第5回 選挙と政治
第6回 地方分権
第7回 マスメディアと政治
【パート3 政治のしくみ】
第8回 国会
第9回 内閣と総理大臣
第10回 官 庁
【パート4 政治と世界】
第11回 冷戦の終わりからテロとの戦いへ
第12回 経済交渉
第13回 国境を越える政治
【まとめ】
第14回 ドキュメンタリー映画で知る日本政治（1）
第15回 ドキュメンタリー映画で知る日本政治（2）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 毎回の提出課題である「予習・復習レポート」の作成に毎週4時間程度を要する。
- 予習・復習レポートの教科書参照箇所や演習問題は、授業中に指示する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- （1）本授業の目的・内容は、以下の本学のディプロマポリシーに大きく貢献できる。
【流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力】
「ネオカンのひびひへこたれず」の精神をもった人材
知識を知識に転換することができる。論理的思考力を持った人材
創造力 新しい視点と豊かな発想 を持った人材
自主・自立の精神を持った人材
仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
- （2）本授業の目的・内容は、以下の経済学部経済学科のディプロマポリシーに大きく貢献できる。
【共通】人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。
【現代経済コース】世の中の動きを理解し、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる。
【地域まちづくりコース】経済学を基礎にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- クリッカー（レスポンス）を用いて、予習・復習レポートおよび学期末レポートを課す。
- 授業中に、クリッカー（レスポンス）を用いて、質疑応答やアンケートを行う。

実務経験の有無及び活用

備考

- 履修生のリクエスト等に応じて、授業計画は柔軟に変更することもありうる。